

単元名 保健「けがの防止」

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当をすることができる。
 (2) けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現することができる。
 (3) 健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

05100204_001

【準備等】 けがに関する自校資料、けがの手当実習用の器具、校区地図、交通事故の新聞記事 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 けがの種類や原因について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 18～19から挿絵から8人のキャラクターを探し、気を付けることを考え、単元の学習課題をつかむ。 ★けがの防ぎ方について考え、けがの簡単な手当ができるようにしよう。 けがの経験について話し合う。 <p>○けがの原因について理解する。</p> <p>2 交通事故を防ぐためにはどうしたらよいのかを話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> 人の行動に主な原因がある交通事故について考える。 環境に主な原因がある交通事故について考える。 学習のまとめをする。 <p>3 学校生活や地域でのけがの防止について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りのけがについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> どのような時間に、どのような場所で、どのような原因で 学校や地域でのけがについて話し合う。 けがを防ぐには、どうすればよいかを話し合う。 学習のまとめをする。 <p>4 身の回りの犯罪の防止について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 犯罪の起こりやすい場所について考える。 危険な目に遭いそうになったときには、どのように行動すればよいか考える。 犯罪から身を守るための方法について考える。 学習のまとめをする。 自然災害から身を守る <p>5 軽いけがの手当について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> けがをしたときの行動の仕方を知る。 軽いけがの手当ての仕方を実習する。 <ul style="list-style-type: none"> 擦り傷、切り傷、やけどなど 学習のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵の中から8人を見付け、どのような危険にどのような状況にいるのか、どのようなことに気を付ければよいのかを考えさせる。 教科書P. 20の「話し合ってみよう」を基に話し合わせる。 どのようなときに、一時停止をしないで飛び出してしまうのかについても考えさせる。 人間は心の状態や体の調子によって危険な行動をとってしまうことがあることに気付かせる。 教科書P. 22の「やってみよう」の場面で、どのような危険があるか予測し、行動の仕方を考える。 教科書P. 22のグラフから交通事故の傾向を読み取らせる。 通学路にどのような設備があるのか、その場にはどんな危険があるのか、具体的な例をあげて考えさせる。 教科書P. 23の「やってみよう」やP. 18～19の挿絵から見つけたけがの原因を、人の行動によるものと環境によるものとに分けて、どうしたら防げるのかを話し合わせる。 教科書P. 24の「やってみよう」に記入させ、けがの原因について考えさせる。 教科書P. 24のグラフから小学生の事故の原因の傾向を読み取らせる。 教科書P. 25の「やってみよう」を基に危険な予測や安全な行動について整理させる。 けがの防止には、状況を判断し安全な行動を心がけるとともに、周囲の環境を安全に整える必要があること押させる。 教科書P. 26の挿絵を基に考えさせる。 教科書P. 27の「やってみよう」を基に、地域の特色に応じた場面を設定しながら考えさせる。 危険が隠れている場所を見分けるためのポイントや安全な行動について整理させる。 犯罪を防ぐためには、危険な場所には近づかず安全な行動を心掛けることや安全な環境づくりが必要であることを押さえる。 教科書P. 28とP. 29の「話し合ってみよう」を基に話し合わせる。 けがをしたときには、その程度を素早く判断することが大切であることを知らせる。 けがの種類に合わせた手当の仕方があることを理解させる。 教科書P. 31の「やってみよう」の手当ての仕方を実習させる。 発展として、熱中症の対処の仕方についても取り上げる。 けがの防止について、どのように今後の生活の中で生かしていくのかを発表させ、実践への意欲を高める。 <p>【評】 学習したことをまとめる活動を通して、</p>

【 備 考 】

本単元では、けがの発生要因や防止の方法について理解できるようにするとともに、けがの簡単な手当てができるようにする。交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがなどを取り上げ、その防止には、周囲の状況をよく見極め、危険に早く気付いて、的確な判断の下に安全に行動することや、環境を安全に整えることが必要であることを理解させる。また、けがの手当ての実習を取り入れることでより実践的に理解できるようにする。